ミーティングリポート

今回は、現場で起こることに対しての質疑・応答～トレーナー活動の現状と課題～の内容でバレーボールチームでの活動内容、現状と課題について話をしました。

― 主　な内　容 ―

＜現場でのトレーナー活動の現状と課題＞

今回はトレーナー活動の現状と課題というテーマでバレーボール競技での選手強化、国際大会での帯同報告を行いました。

2020年に東京オリンピック開催が決まったこともあり、バレーボール競技としても東京オリンピックで金メダルを獲得するための強化策 Project　CORE(コア)が立ち上がりました。主に指導方法策定、普及事業、有望選手発掘、選手強化の4本柱として構成されています。選手強化としてシニア(トップチーム)での活躍に繋がるようにジュニア、ユース世代の強化に向けた各カテゴリーでのトレーニングの目的を明確にして取り組んでいます。その中でも、バランスの良い身体づくりで、特に股関節の機能向上に向けて取り組んでいます。

9月韓国仁川で開催された第17回アジア競技大会(2014/仁川)での活動報告をする中で、特に怪我人の対応についてクローズアップして話を進めました。

代表(選抜)チームで起きた怪我は各選手の所属チームとも連絡を取りながら対応の協議を進めていきます。客観的な判断を医療機関で行うこと(海外であっても同様に)、その情報を元に代表チームでプレーが続行出来るのかどうかを判断し、代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、選手本人で協議して方向性を出すようにしています。

そのためには、各スタッフがそれぞれの役割を果たし、密な連絡を取ることで選手を守るサポートが出来ます。

ドーピング検査では、選考段階から選手へ講習を行うなどをしています。ドーピング違反になると知らずに使用していることがあることを事前に確認をしています。例えば、市販薬(飲み薬、目薬など)、サプリメント、軟膏、整髪剤などの中に禁止薬物が入っている可能性があるので、選手が普段使用しているものをすべて持ってきてもらいチェックをしました。特に、含有物質が明記されていないものはチェックしようがない為にドーピング違反の危険があり、わからないものに関しては選手へ使用しないように教育し、また服用する前に必ずチームドクター、トレーナーに確認することも徹底をしました。

＜現場で行っている対応について＞

現場で行っている簡易チェックについてお話をしました。皆さんは、バランスパッドをご存じですか？少し固めのクッションのようなもので、この上に立ってバランスのトレーニングなどが出来ます。このバランスパッドの上で、目を閉じて両足で立てますか？目を開けて片足で立てますか？バランスパッドが無い場合は、足を前後一直線に揃えて目を閉じて立てるかどうかでもチェックできます。これが立てない選手は競技復帰をさせないようにしてます。

前屈では、つっぱる場所によって体の状態や体の使い方もわかります。前屈は前に倒すだけでなく、その状態から左右に同じように前屈が出来るかも合わせてチェックしてみて下さい。届く範囲が違う場合は、そちらの股関節に上手く乗りにくいということもわかります。

参加者：理学療法士６名、学生１名　　合計７名

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜

次　回　の　開　催　予　定

次回の開催は、2015年1月11日(日)・12日(月・祝)にスポーツネットミーティング2015を立命館大学朱雀キャンパス(1F 視聴覚室、5F 大ホール)にて開催します。参加希望される方はメール(info@bb1992.com)または TEL(0774-24-3644)にてご連絡頂きますようよろしくお願い致します。

＜＜懇親会申込書＞＞

懇親会に参加申し込みます。

氏名		所属	
連絡先		参加人数	

メール(info@bb1992.com)又は FAX(0774－24－3644)にて11月25日(火)迄にご返送下さい。